

# 芽室町議会ナビ vol.8

## ～私はこうして議員になった。～

### # 決断の瞬間と、その後のリアル - 現職議員に聞く “最初の一步” -

議員になる人は、特別な人。そう思われがちですが、  
実際には、仕事や家庭、地域での暮らしの中で感じた違和感や思いが、最初の一步になることが少なくありません。



### 現職議員にインタビュー

Q1. 議員になる前は、何をしていましたか？

保育士／ファミリーサポートセンター事務局  
「議員になる前は、町の暮らしを現場で支える仕事をしていた人もいます」



介護事業施設勤務（人事・労務）

「議員は、普通に働いていた会社員からも生まれている」



Q2. きっかけは何でしたか？

「この地域には議員が必要」  
地域からの推薦が、立候補を決断するきっかけとなりました。



「逃げずに引き受けた政治」

周囲に声をかけても候補者が見つからず、「それなら自分が」と立候補を決めました。



Q3. 立候補を決めるまで、一番悩んだことは？

「人生の決断としての立候補」  
定年を目前に控えた中で、この選択が本当に正しいのか、何度も自分に問いかけました。



「何も持っていないでも立候補できるのか？」

「支援基盤・知名度・資金」を何も持っていない中での挑戦に、不安がありました。



「立候補を決めた“最後の一押し”には、こんな声がありました」

- ・ 家族の理解と応援！
- ・ 地域の方からの「やってほしい」という声！
- ・ こんな町にしたい、変えたいという思い！
- ・ 他に候補者が見つからず「それなら自分が」と！

立候補の“最後の一押し”は、特別な出来事ではなく、身近な人や地域への想いが重なった瞬間でした。

Q4. 実際にやってみて「想像と違ったこと」

「覚悟が必要な仕事」  
想像以上に難しく、責任の重い仕事でした。同時に、人の暮らしとこれほど深く関わる仕事だとは思っていませんでした。



「議員としての使命感を痛感」

最初は、議員として何をどう進めていけばいいのか、正直分からないことが多かった。



Q5. もし過去の自分に声をかけるなら？

「迷ってもいい。  
自分を信じて、努力を続けてほしい。」



「まちを想う気持ちがあれば、迷わず進め。」



議員になる道は、  
ひとつじゃない。

「だから、誰にでも可能性がある」

